

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2005-503164 (P2005-503164A)

【公表日】平成 17 年 2 月 3 日 (2005.2.3)

【年通号数】公開・登録公報 2005-005

【出願番号】特願 2003-529980 (P2003-529980)

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 Q 1/04

G 0 1 N 33/569

【F I】

C 1 2 Q 1/04

G 0 1 N 33/569 B

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 5 月 11 日 (2005.5.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

標的細菌が細胞溶解性抗生物質に耐性を示し、以下の一連のステップ、

i) 細胞溶解性抗生物質を含むインキュベーション培地中で試料をインキュベートするステップ、

i i) 捕捉剤を含む固相支持体上に標的細菌の不溶解細胞を捕捉するステップ、

i i i) 標的細菌の不溶解細胞の溶解を引き起こすことができる薬剤に該細胞を曝露するステップ、および

i v) 標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するステップを含む、試料中の標的細菌の存在を判定する方法。

【請求項 2】

ステップ i i i) の前に洗浄ステップおよび / またはろ過ステップがある請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

捕捉剤が黄色ブドウ球菌に特異的な抗体である請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】

捕捉剤がフィブリノーゲンである請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 5】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤が黄色ブドウ球菌に対して選択的である請求項 4 に記載の方法。

【請求項 6】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤がリゾスタフィンである請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

細胞溶解を引き起こすことができる薬剤がバクテリオファージである請求項 1 から 4 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

培地が液体ブロスである請求項 1 から 7 のいずれか一項に記載の方法。

## 【請求項 9】

固相支持体が磁気ビーズを含む請求項 1 から 8 のいずれか一項に記載の方法。

## 【請求項 10】

ステップ i v) が生物発光検定を含む請求項 2 から 9 のいずれか一項に記載の方法。

## 【請求項 11】

生物発光検定がアデニル酸キナーゼに基づく請求項 10 に記載の方法。

## 【請求項 12】

ステップ i v) が細胞内酵素マーカーに基づく比色検定または蛍光検定を含む請求項 2 から 9 のいずれか一項に記載の方法。

## 【請求項 13】

細胞溶解性抗生物質がメチシリンである請求項 1 から 12 のいずれか一項に記載の方法。

## 【請求項 14】

細胞溶解性抗生物質を含む培地、標的細菌に特異的な捕捉剤を含む 1 種または複数種の固相支持体、標的細菌の細胞溶解を引き起こすことができる 1 種または複数種の薬剤、および標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するための試薬を備える、細胞溶解性抗生物質に耐性を示す標的細菌の試料中の存在を判定するための試験キット。

## 【請求項 15】

細胞溶解性抗生物質がメチシリンである請求項 14 に記載の試験キット。

## 【請求項 16】

1 種または複数種の捕捉剤が黄色ブドウ球菌に特異的な捕捉剤を含む請求項 14 または 15 に記載の試験キット。

## 【請求項 17】

1 種または複数種の捕捉剤がフィブリノーゲンを含む請求項 14 から 16 のいずれか一項に記載の試験キット。

## 【請求項 18】

1 種または複数種の細胞溶解剤がリゾスタフィンを含む請求項 14 から 17 のいずれか一項に記載の試験キット。

## 【請求項 19】

標的細菌の溶解細胞に由来する細胞内物質の存在を判定するための試薬が、細胞内酵素マーカーについての生物発光、比色検定、または蛍光検定に相当である請求項 14 から 18 のいずれか一項に記載の試験キット。

## 【請求項 20】

サンプル中における細胞溶解性抗生物質に抵抗性の標的細菌の存在を判定するため、および請求項 1 から 13 のいずれかに記載の方法を実施するための請求項 14 から 19 のいずれかに記載の試験キットの使用。